

【小さな旅・番外編】ひたちなか海浜鉄道に乗る



2月11日に、茨城県水戸市で「スマートまちづくりフォーラム in 水戸」が開催され、RACDAからは理事長と私が参加した。その翌日、私は水戸に程近い勝田へ出向き、ひたちなか海浜鉄道に乗車してきた。

●ひたちなか海浜鉄道とは

ひたちなか海浜鉄道は、水戸市の北東に隣接するひたちなか市の常磐線勝田駅から、同市内の太平洋岸に近い阿字ヶ浦駅までの14.3kmの「湊線」を運営している。全線単線・非電化で、全区間の所要時間は27分。

湊線の歴史は古く、勝田～途中的那珂湊間は、来年開業100周年を迎える。全線開業は1928年で、今年で84年を迎える。

当初は、湊鉄道として設立され、1944年に戦時統合により茨城交通が発足、茨城交通湊鉄道線となった。1969年には当時の国鉄から海水浴の臨時列車の乗り入れが始まった(現在は乗り入れ廃止)。2008年に茨城交通から分社、第三セクター化によりひたちなか海浜鉄道を設立、現在に至る。

●湊線に乗ってみる

常磐線勝田駅の1番線がひたちなか海浜鉄道湊線ホームとなっており、乗り換え改札をホーム上に設置している。ここから湊線に乗り込む。

勝田駅を出ると、常磐線に沿って少し南へ向かい、常磐線と分かれるあたりで「日工前」に到着。列車はここから



南東方向に向かって走ってゆく。次は「金上」。金運上昇という縁起を担いだ駅として知られているが、駅自体は住宅地の中にある。ここを出ると一気にローカル感漂う田園風景となり、「中根」を過ぎると太平洋まであと少しというところで「那珂湊」に到着。ここにはひたちなか海浜鉄道の本社と車庫が併設されており、列車運行拠点としての機能を持っている。当駅から徒歩約10分の那珂湊漁港に隣接する海鮮市場「那珂湊おさかな市場」は大勢の買い物客や観光客で賑わう。列車は北東へ進路をとり、太平洋岸に沿って「殿山」「平磯」「磯崎」と進み、終点の「阿字ヶ浦」に到着。ここから徒歩約5分で阿字ヶ浦海水浴場や阿字ヶ浦温泉があるほか、徒歩約25分で国営ひたち海浜公園に行くことができる。

●湊線のこれから

東日本大震災からまもなく1年。ひたちなか海浜鉄道も震災で大きな被害を受け、全線で運休を余儀なくされた。しかし、復旧は早かった。地震によるレールのゆがみや溜め池の堤防決壊などはあったものの、内陸を走っていたため津波の被害は免れた。約4ヶ月で全線運転再開にこぎつけ、普段と変わらず列車が走るようになった。

湊線では、ひたちなか商工会議所が「おらが湊鉄道応援団」を組織して利用促進活動を展開しており、水戸黄門の印籠よろしく「この紋処が目に入らぬか」と書かれた乗車証明書を配布、

協賛店で提示することでサービスが受けられるようになっている。また、那珂湊駅には駅猫「おさむ」が住み着いており、おさむグッズも販売されている。

三セク化して黒字転換までもう少し、と言う矢先の震災ではあったが、全線復旧したこれからは、利用者を増やしていくにあたっての正念場ではなかろうか。そう思いながら那珂湊駅で記念乗車券などを購入し、微力ながら売上貢献をさせていただいて現地を後にした。



(石井孝幸)